



世界へのプレゼントになる

国際ロータリー会長

K. R. ラビンドラン

Nagai Rotary Club

長井ロータリークラブ

Weekly report

長井ロータリークラブ会長	渡部 堅一	第2800地区ガバナー	酒井 彰
長井ロータリークラブ幹事	大山 友規憲	第6ブロックガバナー補佐	芳賀 康雄
パストガバナー	渡部 保太郎		
例会日	毎週火曜日 12:15~13:15	例会場	タスパークホテル Tel0238-88-1833
事務局	長井商工会議所内 Tel0238-83-2047	会報委員	五十嵐順子・菅 滋徳・塚田弘一・志釜幸喜・奥山智孝

URL: <http://www.nagai-rc.jp>E-mail: info@nagai-rc.jp

四つのテスト 1 真実かどうか 2 みんなに公平か 3 好意と友情を深めるか 4 みんなのためになるかどうか

平成28年 3月 8日 (火曜日) 第2, 652回

【月間テーマ】 水と衛生

<例会報告 NO.32> ゲスト卓話 最上川リバーツーリズムネットワーク理事長 佐藤五郎 氏

☆会長挨拶 (渡部会長)



みなさんこんにちは。今週に入りだいぶ風があたりやすくなりました。しかしながら、インフルエンザが流行っているようですので注意してください。

東北の震災から3月11日で5年が立ちます。だいぶTVなどで様子がうかがえますが、まだまだ復興は進んではいないようです。当クラブでも一度被災地へ行っておりますが、その後は、なかなか行く機会がなくなっているのが現状です。みなさんは、いかがでしょうか。

また、福島原発もTV等で、取り上げられている現状です。

1986年4月26日に事故を起こした、ウクライナ北部のチェルノブイリ原子力発電所も、30年目の節目を控えております。今なお、数千人規模の職員が、管理や廃炉などの作業にあたっております。爆発にあった4号機にかぶせるアーチ型シェルターの建設は、最終段階を迎えました。17年11月に、高さ110mの世界最大という、可動式構造物で、レールで移動させ、煙突を取り除いて、すっぽり覆う仕組みだそうです。対応年数100年で、その後

は次世代に引き継がれることとなります {放射能を食い止める作業に、終わりはない}。また、事故機以外の廃炉作業が終わるのは、約半世紀後の65年だそうです。

今日は、最上川リバーツーリズムネットワーク理事長の佐藤さ五郎さんの卓話です。

☆ビジター紹介

・白鷹RC 向田宏男 氏

☆幹事報告

・2800地区のチャリティゴルフコンペの案内。4/9 山形ゴルフ倶楽部にて開催。

・尾花沢RC創立50周年記念式典案内。5/22、13:30よりサルトコンベンションホールにて開催。

・来週、第13回理事会開催。

・本日配布されたガバナー月誌に、ガバナー公式訪問の記事があるが、P14に長井RC、最終ページにポール・スフェー-表彰で長井RCより3名表彰されておりますので見てください。

☆委員会報告

○ロータリー情報委員会 尾形和夫 委員長

ロータリーの友3月号 見所紹介

・横書 P20 水と衛生月間に合わせ、フィリピンにグローバル補助金を活用し水の供給施設新設。

・P22 国際ロータリー会長エレクト紹介。

・P33 世界ロータリーアクト週間に合わせた記事掲載。

・P39 ガバナーの記事に2800地区の酒井ガバナーが掲載されております。

<ニコニコ BOX>

○手塚 典雄 会員

- ①ゲストの佐藤五郎先生を歓迎して
- ②ビジターの向田先生を歓迎して

○塚田 弘一 会員

長井が全国に誇る水の研究者である佐藤五郎先生を歓迎いたします。

○伊藤 克也 会員

長井スキークラブの後輩に準指導員が誕生しました。

○齋藤裕之 会員 分として伊藤会員紹介

昨日の山形新聞に齋藤会員の店舗が大きく紹介され、内容もとても良く大変うれしく思いました。本人出席だったら、たくさんニコニコ BOX に入れたと思いますが欠席なので、会長・幹事・自分からということで

☆ゲスト卓話

(最上川リバーツリズムネットワーク理事長 佐藤五郎 氏



演題：西村久左衛門と最上川舟運

- ・長井市の航空写真をみても、長井はいかに最上川に寄り添っているかがわかる。
- ・これから桜の季節となるが、米沢から河口までみても、長井千本桜のような、あれくらいの本数ですぐ見えるとうことは、まずない。
- ・最上川舟運は河口から舟運が広がってきたが、中流は最上義明山形城主が開拓、では上流はどうかというと米沢藩の御用商人の西村久左衛門が挑んだ。上流は非常に難所でありなかなか開けなかったが、この西村久左衛門により一気に 80 km くらい延びた。全長で 200KM となるが一つの河川で 200KM の舟運はほとんどなく、最上川は全長 229M でありその 9 割が舟運として発達させたところはない。
- ・最大の難所は五百川溪谷であるが、川が山を削ったのではなく、岩盤が隆起してできたため、結果的にこのような地形になった。芭蕉ラインも最上峡も同じで、一年間に数ミリといった感じで少しづつ隆起していった。
- ・荒砥から左沢までが最上川で一番の急流である。置賜盆地は 700M 流れて 1M 下がるが、五百川峡は 500M いて 1M 下がる。最上川全体の平均は 1/1000 ということで、

1 KM いて 1M 下がる (米沢市内から河口まで)。

- ・元禄 5 年に米沢藩に普請の願いを出した。米沢藩は借金だらけの藩でお金がないということで、御用商人であった西村久左衛門は、自分がお金を出すということで、手続を米沢藩に依頼した。
- ・当時はみな江戸まで米を運んでいたが、江戸の人口が爆発的に増えたため、米の消費は非常に大きかった。ちなみに現在の米の消費量は年間 50Kg に満たないとのことであるが、その当時は年間 200Kg ということで、米が不足全国から集めた。
- ・元禄 7 年 9 月に開削完了し、長井から米を 17,300 俵西田から大阪経由で江戸まで運んだ。西村久左衛門は運送費として、17,300 俵のうち 9,200 俵を受け取った。約 7 割近くが運送費であったが、それでも米沢藩からすると、早く大量に送ることができた。
- ・西村久左衛門はもともと近江商人であったが叔父さんが直江兼続に使えており、度々米沢を訪れていた。上杉藩は 120 万石の大大名から、関が原で一気に 30 万石に減らされた。30 万石になったことから、このまま米沢藩にくっついていても商売にならないということで大半の商人は上杉から離れていったため、西村久左衛門は直江兼続の推挙を受け、御用商人となった。そして、最上川に挑んだのは、3 代目にあたる。この時米沢藩は跡目騒動で 30 万石から 15 万石の半分になる。その後米沢藩より難癖をつけられ、くびになり船やら財産が取り上げられた。
- ・3 代目久左衛門は 15 歳の時に 2 代目を亡くし、三回忌に当たる年、17 歳で 3 代目を継ぎ、商売に精を出し、北前航路を活用しあちこちに販路を広げ、秋田にも支店をつくった。
- ・米沢藩の財政再建に大きく寄与し、長井は米沢の表玄関であり、松川筋 (長井) の繁栄に大きく貢献していることから、西村久左衛門の銅像を長井に建てたらいいのではないかと思っている。

*詳細は DVD をご覧ください。

☆次回例会予定

・3月15日 ゲスト卓話 長井 JC 理事長 井上典嗣 氏

☆出席報告

3月8日例会 報告者：大滝 徹 会員

	会員数 (免除)	出席数 (免除)	出席率	MU数	修正 出席 数	修正 出席 率
本日 (3/8)	29 (1)	20 (1)	68.97 %			
前回 (3/ 1)	29 (1)	20 (1)	68.97 %	4	24 (1)	82.76 %
前々回 (2/23)	30 (2)	23 (2)	76.67 %			